



## アグリサイエンスバレーから始まる産業振興とまちづくり

筑波銀行水海道支店長  
中嶋 利成

常総市長  
神達 岳志氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県常総市です。筑波銀行水海道支店長 中嶋 利成が常総市長 神達 岳志氏にお話を伺いました。

### 水害復興から地方創生へ

常総市長に就任して、本年8月で2期目2年目となりました。市長に立候補したきっかけは2015年の水害（平成27年9月関東・東北豪雨）で、復旧復興を第一の課題に掲げました。

1期目は、まずはインフラなどハード面の復旧復興に取り組みました。次に、本市を「水害があったまち」ではなく、「水害防災に強いまち」にするため「防災先進都市」を掲げ、自主防災組織の確立、防災リーダーの育成などソフト面の充実を図りました。これらの取り組みの中で、国土交通省や茨城県と意見交換し、「マイ・タイムライン」が開発されました。これは、台風の接近時などに「いつ」「何をするのか」を住民一人ひとりが時系列で整理した自分自身の避難行動計画です。さらに、SNSや防災ラジオなど様々な情報発信・共有手段を導入しました。

今後についても、災害はいつでもどこにでも起こるものという前提のもと、気を抜かずに防災の施策を継続していきます。

2期目は、官民連携による地方創生をハード、ソフト両面から推進し、市民が誇りに感じるまち

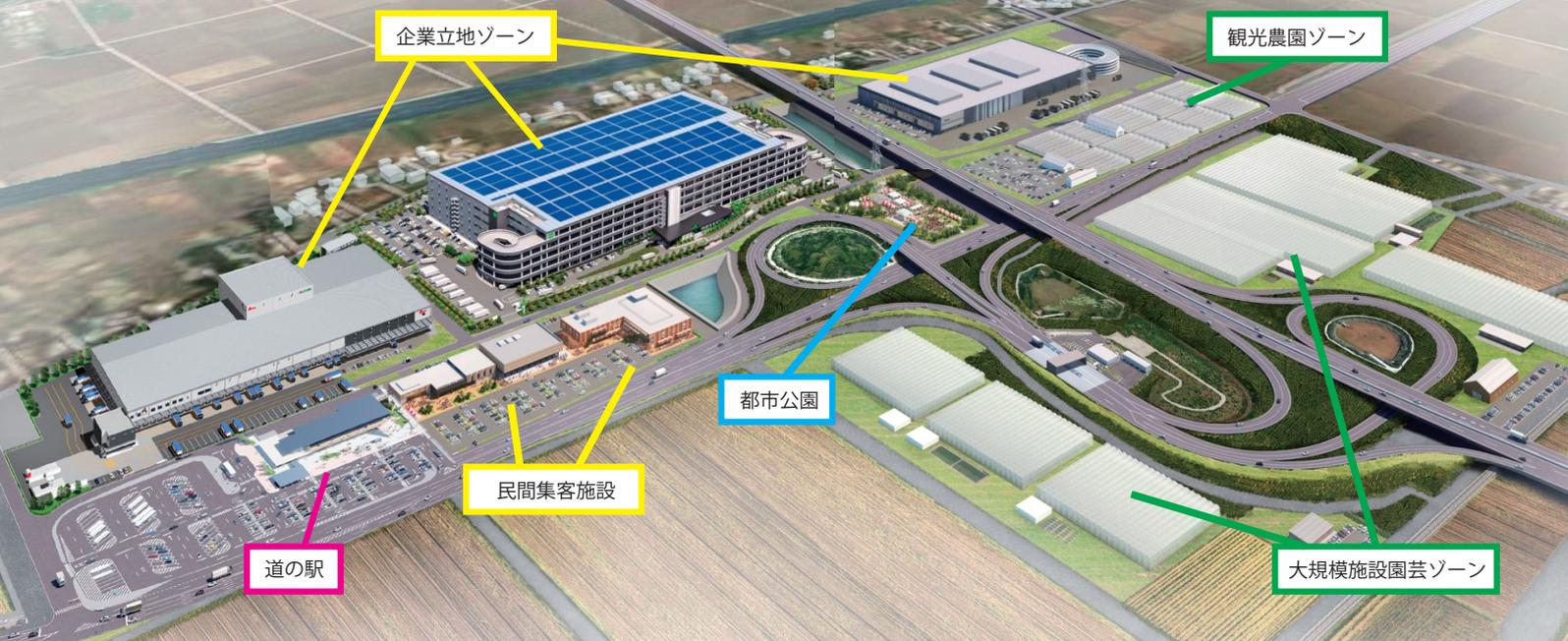
づくりを進めています。

例えばハード面では、観光拠点・水害からの復興のシンボルとなる道の駅建設を含む「アグリサイエンスバレー事業」や「水海道あすなるの里」のリニューアル、ソフト面では、「じょうそう観光地域づくりLabo」による事業構想づくりや「知能化マイクロモビリティ」を活用したAIまちづくりに取り組んでいます。

### アグリサイエンスバレー事業

本市の主要な産業である農業を活性化するため、圏央道常総IC周辺の約45 haに「食と農と健康の産業団地」をコンセプトに、高生産性の「農地エリア」と加工、流通、販売が連動する「都市エリア」を集積し、地域農業の核となる産業団地（6次産業）の形成を目指す「アグリサイエンスバレー事業」を推進しており、2023年春のオープンを目指しています。

この事業は、民間事業者のノウハウや統率力を活用するため、構想段階から完成までを見据えた事業協力者として戸田建設株式会社を公募型プロポーザルで選定し、連携して進めています。



## 農地エリア

農地エリアは約14haで、観光農園ゾーン、大規模施設園芸ゾーンからなり、全ての区画の進出企業が決定しています。

まず、国内最大規模の4haの観光農園ゾーンでは、本市の「農業法人大地」による観光イチゴ農園が、本年12月にオープン予定です。従来の観光イチゴ農園はイチゴの棚が地面に固定され、観光客は棚の間の通路を歩いてイチゴ狩りをしますが、この農園の棚はすべて天井につられており、摘み取りする棚を人が届く高さまで下ろしてイチゴ狩りを行います。通路がないため同じ面積のハウスの2倍近いイチゴを植えられます。この仕組みは非常に先進的なもので、規模とともに全国の農業関係者に注目されています。

大規模施設園芸ゾーンでは、ソフトバンクグループの「株式会社たねまき常総」が、デジタル技術によってミニトマトを通年栽培する国内最大規模の施設を2023年春にオープンする予定です。また、「株式会社ファームシップ」が、LED照明を使いAIで管理するデジタル農業で葉物野菜を栽培する植物工場を2025年ごろにオープンする予定です。

## 都市エリア

都市エリアは約31haで、企業立地ゾーン、集客ゾーンで構成します。このエリアも、全区画の進出企業が決定しています。

企業立地ゾーンでは、進出企業の操業・工事が進んでいます。全国に拠点を構える食品総合物流企業の「株式会社ムロオ」が今年4月から操業を開始し、「グッドマンジャパン株式会社」が国内

最大級の物流施設を2023年夏頃の竣工を目標として建設しています。

集客ゾーンには、道の駅と民間集客施設を隣接して建設することで相乗効果を発揮させます。「道の駅常総」は、本市でしか買えない農産物やふるさと納税の返礼品を並べ、レストランやふるさと納税カウンター等を設置し、農業を活かした新たな産業拠点として交流人口拡大、本市の魅力発信、防災機能向上の実現を図ります。

民間集客施設は、道の駅に隣接して「TSUTAYA BOOKSTORE常総インターチェンジ」（仮称）を戸田建設がフランチャイズで運営します。著名な建築家が設計・監修したお洒落な建物で、大人はコーヒーを楽しみながら本を選び、子どもは建物内外の遊び場で遊ぶことで、家族でゆっくり過ごせます。加えて、この施設に隣接して、今流行しているサウナを備えた温浴施設も開業します。

## 集客見込み

道の駅単独では年間約100万人、また集客ゾーン全体での連携を図ることにより、さらなる集客を見込んでいます。

道の駅は、国交省の高速道路の休憩施設の不足解消に向けた社会実験の対象となりました。ETC2.0搭載車が常総ICで降りて道の駅に立ち寄り、2時間以内で高速道路に戻った場合、料金は降りずに利用した際と変わらないというもので、道の駅をサービスエリアのように利用できるようになり、圏央道を通行中の人もターゲットとなります。さらに、都市エリアには新たに2~3千人の雇用が生まれる予定で、その人たちも集客ゾーンを利用することが見込まれます。

## 水海道あすなろの里

水海道あすなろの里は、恵まれた自然環境の中で自然にふれあい土に親しめる施設ですが、稼働率の低下や設備の老朽化等の課題がありました。その解決のために、2022年4月から、キャンプ場企画・運営会社の「株式会社Recamp」（以下、リキャンプ）にキャンプ場・ロッジ棟の管理運営を委託し、「水海道あすなろの里 RECAMP常総」へリニューアルしました。リキャンプは、キャンプ場の設営と運営、キャンパーのサポートやニーズ調査、SNSを通じた情報発信を行います。すでに全国18か所でキャンプ場を運営し、固定ファンも多いので、RECAMP常総の知名度向上が期待できます。

従来からのスポーツ少年団・ボーイスカウトの合宿や、都市部の小学校の春・秋の農業体験での利用も続いており、RECAMP常総とあいまって、強力な観光拠点となる可能性があります。それを後押しするために、アウトドア構想を策定します。

また、あすなろの里とアグリサイエンスバレー事業を結び付け、相互に人が行き来できるような施策も考えていきます。

## じょうそう観光地域づくりLabo

「じょうそう観光地域づくりLabo<sup>ラボ</sup>」（以下、ラボ）は、民間事業者や市民が、アグリサイエンスバレー事業による集客に対し、農業・食・観光のビジネス展開について構想する講座です。

2021年10月に第1期がスタートし、行政・民間事業者・市民がディスカッションを行い、アイデアを出し合って、本市に来た人に喜んでもらい、本市全体を盛り上げる事業構想を練りました。2022年6月に第2期生を募集し、第1期生の事業構想のアイデアをさらに深め、実現の可能性を探っていきます。

私も市の職員も、アグリサイエンスバレー事業を進める中で、官民連携・市民共存を実現するためには、行政で決めた事業に民間事業者を募集す



るのではなく、何をやるかを検討する段階から民間事業者や市民の知恵やアイデア、アドバイスを求め、対話の場を作って進めることの大切さを学びました。この経験をもとに、ラボの事業構想の実現も進めていきます。

## ホンダ知能化モビリティを活かしたAIまちづくり

本市では、自動運転の実証実験や、自動運転の要であるAIを活かしたまちづくりの構想について約3年前から検討し、民間事業者との連携を模索していました。市内で自動運転の研究開発を実施していること、本市の官民連携の取り組みを評価してくれたことなどをきっかけに、本年6月、本田技研工業の研究開発子会社「株式会社本田技術研究所」とのAIや知能化マイクロモビリティを活用した「AIまちづくりへ向けた技術実証実験に関する協定」を締結しました。

この協定に基づき、2種類の知能化マイクロモビリティの実験を行う予定です。1つは、車とバイクの中間のようなモビリティに搭乗し、目的地を指示して自動運転で行くことができる「搭乗型マイクロモビリティ」です。もう1つは、モビリティに歩行補助をしてもらいながら一緒に歩いたり、荷物をモビリティに積んで運んだりすることで、歩行に不安があるが買い物に行きたい、商品を見て選びたい、荷物を持つのは困難という高齢者などの生活の不便さを取り除いて目的を達成できる「マイクロモビリティロボット」です。

この実験の成果としては、高齢者等がマイクロモビリティに支えられて運転も外出も可能になることで、気力や体力を維持し、健康寿命が延びるといった、時代を先取りした生活支援を目指しています。

## 筑波銀行に期待すること

本市と筑波銀行は日頃から情報共有しており、本市と企業との連携もスムーズです。中嶋支店長には、ラボの第2期生として、本市の取り組みに参加してもらっています。また、施策を実現していただける企業や事業者を本市に紹介してくれています。

今後も筑波銀行には、行政の施策を民間企業に周知して橋渡しをしてもらうことなど、官民協働を進展させる取り組みを期待しています。

（取材日：2022年7月21日）



# わがまちのふるさと納税 ー常総市ー

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

## 茨城県内初！ ふるさと納税自動販売機の設置 と おすすめの返礼品

### 個人の方へ

常総市では、ふるさと納税で寄せられた寄付を、常総市の魅力を最大限に引き出せるようなまちづくりの取り組みに活用しています。市外在住の方には、お礼の品として特産品やサービスを贈呈します。下記におすすめの返礼品をご紹介します。このほかにも、魅力的な返礼品を多数ご用意しています。

また、茨城県内初となる「IoTふるさと納税自動販売機」を市内のゴルフ場「フレンドシップカントリークラブ」に本年7月より導入しました。本市を訪れ、体験して感じた「応援したい」という気持ちを、その場でふるさと納税へとつながられる新しい「共感応援納税」です。納税したその日に、返礼品のゴルフ場利用券がもらえ、その日から使えます。

さらに、2023年春には「道の駅常総」のオープンも予定されています。ぜひ常総市へお越しいただき、本市の魅力を感じてください。皆様のお越しをお待ちしています。



ふるさと納税自動販売機を操作する神達市長

### 企業の方へ

常総市では、2016年に創設された「企業版ふるさと納税」を募集しています。この制度は、国に認定された地方創生プロジェクトに対して企業が寄付を行った場合に、法人関係税から税額控除がされる仕組みで、常総市では4つの事業が対象です。

1. 道の駅建設プロジェクト
2. 水海道有料道路通勤時間帯無料化事業
3. 観光地域づくり事業
4. いのちと尊厳を守る福祉避難所整備事業

### 市内の事業者の方へ

常総市では、市外在住の寄付者へお礼の品として贈呈する商品やサービスなどをご提供いただける協力事業者を募集しています。ご提供のメリットは3点あります。

1. 商品やサービスを全国にPRすることができます
2. 販路拡大が期待できます
3. 広告宣伝費、送料などの追加負担はありません

※詳しくは、常総市のホームページをご確認ください

※お問い合わせ先：

常総市 常創戦略課 ☎0297-23-2111

### 常総市おすすめの返礼品

#### 切落し西京漬けセット 1kg



切り身を5日間手もみ仕込みで、美味しい西京漬けに仕上げました。厳選した味噌など地元茨城産の素材を使って寺田屋特製の調味料に漬け込み、魚醤を加えることでなめらかな味わいです。

#### ★JOSO CITY Presents★ 魂心の和風ハンバーグ



ニッポンハム × 常総市のコラボ商品。旨みとコクのあるシャリアピンソースは肉とご飯によく合うソースです。牛肉と豚肉の黄金比率！しっかりとした食べ応えとお肉の食感が楽しめるハンバーグに仕上げました。

#### 季節野菜のもちもちベーグルセット 20個セット



国産小麦と茨城県産の玄米粉をブレンドした生地。独特のモチモチ感の手作りベーグル。茨城県産の有機・無農薬野菜を中心に生地に練り込みました。季節野菜のベーグルで季節感を味わえます。

#### KINTONE Model One BLACK



長年電動モビリティを作り続けてきた技術を詰め込んだ電動キックボードです。電動モーターが音もなく回り、体が勝手に進んでいく、まさに筋斗雲に乗っているかのように移動できます。

#### 【天皇杯受賞】常陸牛 霜降りロース、肩すき焼き・しゃぶしゃぶ用(600g)



平成26年度農林水産祭天皇杯を受賞したドリームファームの佐藤さんの育てた常陸牛のみをお届けします。上質な霜降りロース、肩肉をすき焼き、しゃぶしゃぶ用に薄切りにしました。

#### 森永絹とうふ12丁 + 森永絹とうふしっかり12丁



製造の工程で大豆を水に漬けないことで大豆の旨みが水に流出せず、大豆の皮を取り除き実の部分のみを使用することで、皮に由来する雑味をなくし、コク・甘み・旨みを凝縮しました。無菌充填包装により保存料などを使用せず、常温で長期保存が可能です。